

➤ 6:1-4 ビジョン

- ウジヤ王が死んだ年→紀元前 740 年頃
 - ◇ 16歳でユダの王となり、エルサレムで52年間王だった(列王記第二 15:1-7)
 - ◇ 比較的安泰な時代。神さまを求め、神さまは彼を助けた。しかし、「強くなると」傲慢になり、しかも、主の神殿に侵入し香をたこうとし悲劇を招いた(祭司にしか許されていないことをしようとした。80人の勇敢な祭司たちが王に反抗した。そしてウジヤ王はツアラアトにかかり隔離され命を絶たれる。歴代誌第二 26章)。
 - ◇ そのウジヤ王が死んだ年にイザヤはビジョンを受ける。普通は王が着任した時などに幻を見るのだが。(cf. 14:28「アハズ王が死んだ年、この宣告があった。」)
 - ◇ ここには「二人の王」が登場し比較されている。「ウジヤ王」(6:1)と「万軍の主である王」(6:5)。
 - 物事が順調な時に誰に頼っているのかが問われる。人間の王なのか(cf. 2:22「鼻で息をする者」)、それとも王なる神か。
 - 経済的豊かさが齎す誘惑なのだろうか。儀式をこなしていれば大丈夫という安心感(1:12-17)。
- イザヤが見た主の姿とは、高く掲げ挙げられたお方の王座であった。「御座」=「王座」→裁きの場。
 - ◇ 「高く上げられた」→52:13(主のしもべ) ; 57:15(神ご自身)
- 2節「セラフィム」→「燃えるもの」という意味。
 - ◇ 顔をおおい、両足をおおう。なぜ足なのか? 「足」→自らの活動と方向性を指し示すのか? 自分で勝手に決めるのではなく主の命令があれば動くということの意志の表象か。
- 3節「聖なる、聖なる、聖なる」(繰り返すことによって最上級を表現している)神の性質と栄光を意味する。

➤ 6:5 告白

- 神さまの姿を見るということは恐怖を齎す。「私は滅んでしまう」とイザヤは告白する。二つの理由:(1)イザヤが罪のために汚れているから、(2)神さまを見てしまったから(cf. 出 19:21 ; 33:20 ; 24:11 ; 創 28:12-13 ; 士 6:22 ; 13:22-23 ; モーセは特別、申 34:10)。「汚れ」→唇=心(cf. Mk 7:20-23)、正に5章で描写されていた内容。神さまの聖さがそれらを明らかにする。ウジヤ王との関連。

➤ 6:6-7 清め

- 「祭壇」→清めの儀式の象徴であり、このプロセスの全てが完全に神さまによって備えられていることを表象する。神さまの恵みによって清められる。イザヤは何も貢献することができない点が強調されている。

➤ 6:8-13 派遣

- イザヤが語るべきメッセージとは?
- 裁きの中に残る「切り株」「聖なる裔」とは?
- イザヤとはどのような人物であったか。
 - ◇ 神さまの大きなビジョンをもっていた人(1節)
 - ◇ 自身の罪深さを認識していた人(5節)
 - ◇ 神さまの恵みを深く体験した人(7節)
 - ◇ 代価がどのようなものであっても送り出されることを望んだ人(8節)

➤ “Here I am. Send her/him?! I am here. I ain’t moving.” (大学の時の私の祈り)これでは駄目。

➤ 神さまが我々を助けてくださり、イザヤのように「私を遣わしてください」と言える者にしてくださいませう。今週もこの礼拝を通して、神さまと出会い、御子によって贖われた者として、聖霊によって押し出していただきましょう。